

企業の社会的責任活動プログラム・ケース・スタディ集

2006年3月14日
企業の社会的責任分科会

貿易部会所属企業

(1) 社

××××は、「グッド・コーポレート・シチズン」として地球的視野から社会に対し、幅広い貢献活動を行うことを基本理念としている。基本方針は、社員が参加すること、継続すること、会社の特性をいかすことの3点である。アジア、中国、欧州、米州の4極体制で推進しており、米州の中では、就労機会創出のためのコンピュータ教育やゴイアス州立農業学校拡充計画の支援を行っている。

××××の2005年以降の活動は、下記のとおりである。

1) 桜1000本の寄付

世界最大の日系移民地であるサンパウロのUSP(サンパウロ州立大学)を中心とする公園や河川に日本の国木の桜、ブラジルの国木であるイッペを植える「サンパウロ・桜プロジェクト」に桜の木1000本を寄贈した。戦後移住50周年にあたる2003年に、日系移住と日系企業のブラジルでの歴史を偲ぶために行われたもので総経費は、10万レアル。

2) 社員ボランティア活動

××××サンパウロオフィス設立50周年の機会に行った行事で、社会福祉救済会「憩いの園」やCOTIC(CENTRO ORGANIZADO DE ATENDIMENTO A CROANCAS、幼児施設)に××社長以下17名の社員が週末を利用して訪問し、老人、子供との交流、現地職員との意見交換を行った、その際、おむつやうどん等約6,000レアルを寄贈した。

3) 「あけぼのホーム」に日本間を設置

××××設立50周年の機にサンパウロ日伯援護協会からの依頼により、同協会の傘下事業の一つである「あけぼのホーム」に日本間を設置するための資金を提供した。このホームは、日系人を中心とした生活に介助が必要な高齢者の世話をする特別養護老人施設であるが、「日本間」を提供することで、日本の雰囲気味わってもらおうとするものである。

(2) 社

×××××××は、2005年に創立50周年を迎えた。これを記念し、ブラジル社会に貢献すべく奨学基金を設立することを決定した。基金の名称は、「×××××××奨学基金」で、×××××××が総額US\$50万ドル相当レアルを拠出して設立することにした。上記拠出金の運用益で、特に職業訓練学校の学生、年間10名程度を対象に奨学金を贈与する。奨学金は、卒業し就職するまで支給され、授業料、教材、研修旅行費用等にあてられる。基金の理事は、5名で、対象学校・奨学生を選定、決定し、×××××××社は一切決定に口をはさまないことになっている。基金の事務所は、×××××××社内に設置し、専任秘書を雇用する。基金の事務処理などは、×××××××社の役員が行う。既に定款などを作成し、商業登記、免税措置などを申請中で、2006年5月～6月には設立・払込みなどを実施し、活動開始の予定となっている。

(3) 社

1) ××××は1990年、従業員を対象に、基金(FUNDAÇÃO ×××× BRASILEIRA)を設立した。従業員を役員に任命し、運営を任せている。基金の主要な活動内容は、従業員対象の自己研鑽のための学費補助、従業員及びその家族の懇親会の企画、従業員に対する慶弔金等の支給となっている。

2) 日系コミュニティに対しては、下記の日系団体に加盟し、会費支払いを通じて、各団体の活動を支援している。

- ・サンパウロ地区：日伯文化協会、日伯文化連盟、日伯人文科学研究所、日伯援護協会
- ・リオ地区：リオ日系協会、日伯文化協会、リオデジャネイロ日本人学校への資金支援

3) 在日ブラジル人への支援

- a NPO法人を通じ在日ブラジル人の日本での生活対応に対する援助、各種イベントに対する補助。
- b 在日ブラジル人学校に対し、設備、施設、教材、図書類用の補助金を支給。
- c 別途、在日ブラジル人児童用の補助教材の作成。

(4) 社

XXXX は対日系コミュニティ支援としてアチバイア日本文化協会に、2500 レアル相当のパークゴルフ用芝の提供

ブラジル社会一般支援として 教育関連では、鹿児島県から1年間の語学 / 農業研修生の招聘 2006 年度男女 5 名、各人約 200 万円 ~ 250 万円の予算、2004 年 2 名、2005 年 5 名の研修生を受け入れた

TV-Recorde の新人歌手コンテストで 2 位を獲得したブラジル人プロ歌手に対して、CD などの発売として 1000 ドル相当を支援

文化活動支援として、演歌歌手の井上裕見氏の日本祭りへの招聘に約 100 万円を支援 過去 6 回目、7 回目はブラジル、パラグアイ、ウルグアイ、ボリビア公演も実現した。

繊維部会所属企業

(1) 社

xxxxx は、2005 年に創立 50 周年を迎え、サンパウロ市で式典を開催したがその機会に、いくつかの重要な社会的責任関連プログラムを実施した。

1) xxx 市の SENAI (職業訓練学校) へコンピュータの寄贈

xxxxx の工場がある xxx 市の SENAI に長年にわたる支援・協力を感謝の意を表すために、xxx 市経由で SENAI にコンピュータ 10 台 (25,000 レアル相当) を寄贈した。これにより、市の教育施設を充実させ、教育レベルの向上を図ることができ、市長や SENAI 関係者から感謝された。

2) 地域住民のために公園用地を提供

創立 50 周年、xxxxx のアメリカーナ工場の隣接地 2,257 平米を公園用地としてアメリカーナ市に寄贈。市の緑化計画に協力、周辺市民に公園用地を提供したとして、市長より感謝状を受け取った。

3) 「こどもの園」への寄贈

xxxxx は、日系社会福祉施設の維持・発展に日系企業として協力すべきという考えから、50 周年を記念して、社会福祉法人「こどものその」に 20,000 レアルを寄贈。

機械金属部会所属企業

(1) 社

xxx の社会的活動は、対日系コミュニティ、ブラジル社会一般に対する寄付活動を中心に実施している。同社は、1998 年に設立されたが、会社が順調に発展し、ある程度の利益が確保できるよ

うになった2003年から寄付活動を開始した。2003年には、「憩いの園」（日系人の老人ホーム）、APAE（精神障害者の施設、INSTITUTO BRASILEIRO DE CONTROL DO CANCER（癌の予防・治療施設）にそれぞれ、4、000リアルずつ寄贈。2004年には、「憩いの園」とGRAACC（子供及び未成年者の癌の治療及びサポートをする施設）にそれぞれ5000リアルを寄付。2005年には、「憩いの園」とCENTRO DE CONVIVENCIA INFANTIL（子供のエイズ患者の世話、治療、教育、社会への適応を指導する施設）に各5、000リアルを寄贈した。同社は、今後企業の規模が拡大されれば、寄付活動以外にも活動範囲を拡大したいという意向を持っている。

（2）社

（2005年の活動）

1）環境問題への取り組み

環境保全に関する規則を遵守するために、ISO 14001を取得した。その結果、CBCが環境問題に配慮する企業であるという評価を得るとともに社員の環境に対する認識が高まった。（220万リアルの投資）

2）従業員の安全と衛生への取り組み

従業員の安全と衛生の環境作りをめざすため、OHSAS - 18001を取得。この結果、従業員間に安全と衛生に対する認識が高まった。（30万リアルの投資）

3）青少年に対する支援

恵まれない青少年を支援するために市によって開発されたプログラムに対してIRPJの1%を限度にFMDCA（青少年の権利を守るための市の基金）に寄贈している。（年間、3万リアル）連邦政府のフィスカル・インセンティブを活用したもの。

4）地域の日系コミュニティへの支援

- ・ ジュンジアイ日伯文化協会の運動会、カラオケ大会に対する寄付（5,340リアル）
- ・ サンパウロの援護協会への年間会費（435リアル）

5）文化活動への支援

山崎チズカ監督のSCENA FILMES LTDA.に対し映画製作のために3万リアル支援。連邦政府のフィスカル・インセンティブを活用したもので、IRPJの3%を限度とするもの。

6）溶接工プロフェッショナル養成コース

会社内外の溶接工を要請するために、経験のない人々を対象に3ヶ月の溶接コースを行っている。年間投資額、10万リアル。

7）地域の学校の生徒対象の工場見学プログラム

地域の技術学校の生徒を対象に年3回、xxxの工場見学を組織する。交通費、昼食を負担するとともに、会社のプレゼンテーション、工場見学を行う。（1,500リアル程度）

8）従業員の家族に対するプログラム

従業員の家族に職場をより良く知ってもらうために年5回程度、工場見学を組織する。交通費、昼食代を負担するとともに、会社のプレゼンテーション、工場見学を行う。（3,500リアル）

（3）社

（2003年実績）

- ・ 2003年4月にヒベロン・ピーレス日伯文化協会の俳句大会に500リアル寄付。
- ・ 9月に上記文化協会の運動会に300リアル寄付。

（2004年実績）

- ・ 4月のヒベロン・ピーレス日伯文化協会の俳句大会に500リアル寄付。
- ・ 8月の上記協会の運動会に200リアル寄付。
- ・ 12月にAPAEI（ヒベロン・ピーレス貧困者救済協会）へ200リアル寄贈。

（2005年実績）

- ・ 4月、ヒベロン・ピーレス日伯文化協会の俳句大会に500リアル寄贈。
- ・ 8月、APAEIに対し、700リアル寄付。
- ・ 9月、上記文化協会の春祭りに700リアル寄贈。

- ・ 12月、APAEIに1,700リアルを寄贈。

(4) 社

企業の社会的責任は、xxxの歴史の一部を成しており、1970年の会社設立以来、地域社会の福祉と環境保全への貢献を目的としてきている。

1) 環境面での活動

2000年にxxxはISO14001を取得。水利用の減少、廃棄物処理、ごみの選別収集などに効果を発揮するとともに、さらに改善しようとするモチベーションに繋がった。

2) 企業内週間を社会的責任活動の実践の場へ

協力者のボランティア活動を奨励するために企業内の各種週間を社会的責任活動を実践する場に変えることにした。具体的には、環境週間(SIMA)、労働災害防止週間(SIPAT)、交通事故防止週間(SIPATRAN)、火災防止週間(SIPREVIN)、社会的責任週間等の週間活動がある。

3) xxx CIDADAOの設立

社会的活動の増大とともに、プロジェクトを遂行する上でより良い組織が必要となったため、2003年に、xxx CIDADAO(xxx市民)を設立した。内部の委員会によって運営され、その目的は、地域の必要性に応じた活動を通じてコミュニティの発展に協力し、企業、政府、NGOや地域社会と共同で活動することである。

4) RSI(内部社会責任)

協力者の福祉を探究するために2004年にRSI(RESPONSABILIDADE DE SOCIAL INTERNA、内部社会責任)という組織を設立。この組織の目的は、xxxの従業員に対し、個人的、職業的な困難に遭遇した時に支援し、社会的オリエンテーションを提供するというものである。

5) 数字で見る社会的責任活動

- ・ 2001年 活動数 2、8.5トンの食料提供、350着の衣服の提供
各種施設への寄付 10,850リアル。
- ・ 2002年 活動数 5、8.5トンの食料提供、750着の衣服の提供
各種施設への寄付 10,850リアル。
- ・ 2003年 活動数 9、10トンの食料提供、909着の衣服の提供
各種施設への寄付 13,100リアル。
- ・ 2004年 活動数 8、12トンの食料提供、100の毛布、8の車輪についての講座、200の教育キット、
各種施設への寄付 11,700リアル。

(5) 社

XXXXは寄付を中心に行っている。数年前に会社の所在地のCACAPAVAの消防署の新設の際には、15,000リアルを寄贈。またCASAPAVAやTAUBATEの日系社会の団体から寄贈依頼があった場合、数百リアル~1,000リアル程度寄贈している。

(6) 社

XXXXはインジオの教育促進を目的に、2005年1月頃にマツグロツソ州北部Territorio Caiapoのインジオ集落に日本ベースのNPOであるAmazon Rainforest Foundation Japanが設立した学校に9000リアルのディーゼル発電機を寄贈した。

建設不動産部会所属企業

(1) 社

- 1) 対日系コミュニティに対する支援

文化活動 ブラジルでの茶道普及を支援するために、毎年ジャパン・フェスティバルの際に、無償で茶室を建設し、ブラジル裏千家茶道センターが茶道のデモンストレーションを行っている。(毎回20,000レアル)また同社の××社長は、日伯文化連盟の活動に理事として参加し、積極的な活動を行っている。

教育関連 日本ブラジル交流協会「留学・派遣制度」による日本の青年の引き受け・研修に協力している。毎年3月から1年間引き受け、ブラジルの生活、実務を体験、研修させる。担当指導員を決め、実務・生活の支援を行う。(年間経費、11,000レアル)

2) ブラジル社会に対する支援

カリタス学園への支援 サンパウロ市の貧困層や一般小児の教育振興に協力するという考えから、2005年まで低価格で学校建設にあたり、「××××教室」の称号顕彰を受けた。(100,000レアル程度の建設提供)また毎年の学校行事に参加し、毎回5,000レアルの寄付を行っている。

健康・衛生セミナーの組織 同社の社員及び関係部外者(公開募集)を対象に、毎年、定期的、1週間、健康、衛生、安全、家庭、心身治療の専門家が講師となり小グループでのセミナーを行っている。これにより、業務以外の「健康・衛生の普及」をわかりやすく体験してもらうようになっている。(1回、5,000レアル)

(2) 社

従業員対象のインセンティブ関連が主たるものである。

クリスマス・プレゼント(CESTA DE NATAL)

従業員対象に年末に4,000レアルの食品かごをプレゼントする。

永年勤続表彰

年末に永年勤続者(15年及び30年)に対して表彰する。(2,500レアル、時計等)

優秀社員表彰

7月の会社設立記念日に年間を通じて優秀な成績を納めた社員を表彰する。

(2,000レアル、時計等)

外部コミュニティ向けのプログラム

年末に社会福祉団体に対し、おもちゃ、衣服、食料など(2,000レアル)を寄贈する。

食品部会所属企業

(1) 社

×××は、企業の社会的責任のワールドワイドな政策に従い、主として教育、栄養、健康、食糧の分野に焦点をあてた多くのプログラムやプロジェクトを展開し、コミュニティの生活の質の向上に貢献している。社会的責任活動への投資効率を向上させるために、1999年にIAA(INSTITUTO ASSISTENCIAL ×××)を設立した。具体的活動は下記のとおり。

1) ACAO COMUNITARIA DO BRASIL, SAO PAULO-SP に対する協力

ACAO COMUNITARIA はサンパウロ市の貧しいコミュニティにおいて補完的教育を行っている NGO で46のコミュニティ、6,200人の生徒を支援している。

- ・ 2001年9月 1年間にわたり、上記46コミュニティ、6,200人の生徒に対し、粉状の調味料と清涼飲料水を提供。
- ・ 2001年 サンパウロ市の南部に位置する SAB JARDIM IMBE のコミュニティ・センターの改造に貢献した。
- ・ 2002年から現在まで SAB JARDIM IMBE のコミュニティで行われている補完教育プログラムに対する支援(読み書き、CRE-SER, 職業準備、130名の子供対象) 2005年からは、同コミュニティの読み書きプログラムの56生徒を対象としている。
- ・ 上記プログラムへの実行にあたっては、味の素社の社員は、3~4ヶ月に1回、土曜日に、補完教育に登録された生徒のために計画された教育プログラムに参加・引率する。

2) C I T (CENTRO DE INICIACAO AO TRBALHO, VALPARAISO-SP 仕事開始センター)への支援

ヴァルパライソ市によって設立されたもので、120名の青少年を対象に、大工、刺繍、学校教育の補強、栄養等について教える。

- ・ 2000年 ヴァルパライソ市との協力で、I A A (x x x 支援研究所) は、C I T 内の実践口座のための調理室の改造・改善を実現した。
- ・ 2001年以降 料理教室のプログラムの継続を図るためにC I T からの要請に従い、ユニフォーム、調理器具、調味料を寄贈した。

3) ジャグアリ市立学校 (ESCOLA MUNICIPAL DE JAGUARI, LIMEIRA-SP) への支援

- ・ 2001年 基礎教育の改革・改善への協力
- ・ 毎年 ジャグアリ・リメイラ市立学校への生徒の教材、ユニフォームの寄贈 (生徒数3~14名)

4) A P A E (ASSOCIACAO DE PAIS E AMIGOS DOS EXCEPCIONAIS, LIMEIRA-SP リメイラ例外的生徒の親と友人の会) に対する支援

A P A E は特別の必要性を持つ青年に対して支援する団体で、現在204人の生徒が登録している。x x x のリメイラ工場は、2004年、この団体出身のプロフェッショナルとの雇用契約を締結。

- ・ 2005年 子供や少年の労働市場へのアクセスを容易にするために、コンピュータ室を寄贈。

5) SANTA CASA DE MISERICORDIA DA LARANJAL PAULISTA (ラランジャ・パウリスタ慈善病院) に対する支援

人口25,000人のラランジャ・パウリスタ市の唯一の病院であるが、サンパウロ州政府と協力して、外科センターの改革と改善のため財政支援を行った。

6) UNICAMP (カンピーナス州立大学食品工学部) への支援

同大学食品工学部は、500人の学生を抱える学部であるが、I A A は、2003年に80人収容の教室をオーディオヴィジュアル機器を導入した新しい教室に改造した。x x x は、それと引き換えに、教室や図書館内でのロゴマークの使用、5年間にわたって、研修生のコンサルティングや選択に優先権を持つようになった。

7) 日系慈善団体への支援

- ・ 1999年 サンパウロの日伯援護協会 同協会の巡回医療クリニックに使用される機材や医療用品を寄贈。
- ・ 2001年 希望の家(80人収容)に対する支援。清水建設と協力し、500メートルの針金を寄贈。
- ・ 2003年 アリアンサ・クルトウルルへの支援。MICHAELIS 版日本語・ポルトガル語辞書の共同スポンサー。

運輸サービス部会所属企業

(1)社

x x x x HOTELS チェーンは、2006年3月現在、ブラジル全土で28のホテル(4月以降30)を運営している。企業の社会的責任活動については、極めて熱心で、全国のホテル毎に地元に着した活動を行っている。2005年には、社会的責任活動を実施していないホテルは6ホテルで、残りの22ホテルはすべて実施している。活動の多くは、何らかのイベントを開催し、食糧、衣服、おもちゃ、毛布、ソファベッド、クッションを収集し、社会福祉関連施設等(老人ホーム、エイズ患者施設、恵まれない子供たちの施設)に寄贈するといった活動である。それぞれのプロジェクトに「子供の日」とか「幸せプロジェクト」とか「連帯プロジェクトといった」名称がつけられている。ここでは代表的なホテルの活動を紹介する。

1) TOWER MORUMBI

エイズビールスを保有する 4 2 名の子供を収容する施設 CENTRO DE CONVIVENCIA INFANTIL FILHOS DE OXUM に対して、教育資材、衣服、食糧、おもちゃ等を 2 0 0 5 年 1 2 月に提供した。住居、教育、教育資材、食事、栄養、衛生、医療品、医療ケア、心理的ケア、レジャー等の機会を提供し、子供たちが自然な形で社会と共生・参加できるように支援する。

2) ANGRA DOS REIS

ホテル内に設置された教室でホテルの従業員が基礎教育を受けることができるようになっている。

ホテルが素材する VILA VELHA 地区のコミュニティと協力して、衣服、プロジェクトに必要な資材、パーティのための食事や飲料を寄贈する。

こどもの日 いくつかのコミュニティのためにこどもの日にケーキをプレゼントするとともにホテルのレジャー・チームを派遣する。

ホテルの遺失物を地域の慈善団体に寄贈する。

リサイクルできるものを販売したお金で従業員の子息のために学校教材を購入する。

9 月 7 日の行進のために白いシャツを学校に寄贈する。

地元の民芸品製作者にスペースを提供し、作品を展示即売する FEIRINHA プロジェクトの実施。

ホテルのスペースを提供し、地元のアーティストの作品の展示会を月に 1 度開催する展示会プロジェクト。

1 日 x x x x x 市の小学校の生徒を招き、ホテルのレジャー、スポーツチームと一緒に過ごし、ランチを提供する。

FESTA JUNINHA のために食糧を CRECHE MUNICIPAL DE ANGRA に寄贈する。

3) TOWER FORTALEZA

ストリートチルドレンを支援する団体である ASSOCIACAO BENEFICENTE O PEQUENO NAZARENO に対し 3 0 0 K G の食糧を寄贈した。

3 月 8 日の国際女性の日にフォルタレーザの社交界の女性 1 2 0 名 (同ホテルの RESTAURANTE MANDACARU のクライアント) が集まり、贈り物を持参し、それを上記の ASSOCIACAO に寄贈した。

フォルタレーザの社交界の女性 2 0 名が集まり、慈善茶話会を開催、2 2 レアルのお茶代の内、5 レアルを寄贈、さらに衣服、ハンドバッグ、靴、宝石類を提出し、バザーを開催、さらに公給領収書を受け取らない客から派生する FISCAL COUPON の収入の合計 1 3 , 0 0 0 レアルを福祉団体 ENTIDADE MANTENEDORA GRUPO VIVA VIDA に 1 2 月 1 日に寄贈した。

ある協会が主催する年間のキャンペーンに賛同し、1 0 月の 1 月間、各朝食につき 1 2 センターボを抛出した結果、全体で、1 0 , 1 2 8 レアルが集まった。その内、x x x x x の抛出分は 9 8 0 レアルとなった。これら資金を IPREDE (栄養失調防止研究所) とフランクリン・ルーズベルト財団という 2 つの子供保護団体に寄贈した。

(2) 社

XXXX は毎年 3 月に日系人を対象にした日本映画 2 本をサンパウロ市内の会館で上映している。毎回約 3 0 0 人が参加しているが、日系社会の高齢化が進む中で特にお年寄りに喜んでいただけている。

コンサルタント部会所属企業

(1) 社

XXXX は社会的責任関連プロジェクトの地域コミュニティ支援として、ブラジル A C J 社と共同で、2003 年から会計入門コース、英語コースを、サンパウロ市、カンピーナス市やパウリセア市の地域コミュニティの貧困家庭の 14 歳から 20 歳の青少年を対象に年間数十人から数百人に教育支援。

また 2003 年から地域コミュニティの青少年リーダー達を対象に、教育・人的交流プログラムとして「一緒に行動」、「手紙交換」、「文化サーキット」、「一日一緒に歩こう」などを実施している。

青少年暴力減少・職業資格支援として、2004 年から犯罪リスク環境で生活している青少年を対象に、1 年間、同会計事務所の他の都市での研修実施支援。

身体障害者支援として、2001 年から就労未経験者の身障者を対象に 1 年間の同会計事務所での職業研修支援

アウトソーシング会社の従業員や同社の社会的責任プログラムの支持者向け支援として、2000 年から英語・ポルトガル語コース実施、

プログラム支持者や従業員支援として、2001 年からごみ選択収集・リサイクルコースを開設した。

地域コミュニティ支援として、2003 年からアグア・ブランカ地区のフランシスコ・マタラーゾ・ジュニア広場の清掃や整備の実施

プログラム支持者や従業員向けに、2005 年からコーラス部を設けて音楽指導や生活向上支援

2000 年からプログラム支持者や従業員に対して血液ドナーキャンペーン、2003 年から骨髄ドナーキャンペーンを設けてドネーション登録支援

1999 年から衣類キャンペーン、2002 年からクリスマスキャンペーン、2003 年からおもちゃキャンペーンを開始してそれぞれ社会福祉施設に寄贈

金融部会所属企業

(1) 社

XXXXX は業界団体主催の社会的貢献活動の一環として、また連邦政府の社会貧困問題撲滅の施策と合わせる形で、東北部の早魃地帯での生活用水宅穂のための 2 万本の井戸設置のために寄付を行なった

自動車部会所属企業

(1)社

××××××工場では、2004 年から社会的責任プログラムの一環として、地域コミュニティの貧困家庭を対象に基本食料バスケットの配布、青少年を対象に散髪、環境問題セミナー開催及び苗木の配布、スマレー市役所保健課と高血圧、産児制限、デング熱などの健康・衛生セミナーの共催、ダンスやコーラスのイベントの開催、入賞者には学用品プレミアムを贈る絵画やデザイン大会の開催などを積極的に行なっており、102 トンの基礎食糧バスケット、4648 個のクリスマスプレゼント、950 人に対する散髪や 17 のイベントを既に開催しており、従業員の参加率は 83% に達し、2004 年 12 月には地域の社会的責任プログラムで最も権威のある “ I A S P D E S T A Q U E 賞 ” を受賞した。

××××××工場では、企業の社会的責任プログラムの一環として、環境自覚プロジェクトとしてイグアラペ水路清掃自覚プロジェクト、リベイリーニョ地域住民支援のエコーヴィーダ、ジャルジン・ポタニコ地域住民に対する森林保全保護プロジェクト、絶滅危機の熱帯ランの育

成・保全プログラム、小学校での環境保全教育キャンペーン、工場内水資源浄化見学会の開催、孤児院への支援、小児ガン患者支援、学生に対するコンピュータ教室の開設、職業訓練支援、貧困地域住民への食事支援、全国工業連合（C N I）及び零細・小企業支援サービス機関（S E B R A E）の「サムエル・ベンチロール教授プレミアム」に対する支援などを実施している。

（2）社

XXXXXは2002年より地域にある孤児院や援助施設5箇所に対してクリスマス時期に援助を実施している。

その他にも要請があった場合に子供遊戯施設や施設改修用製品などを寄贈している。

アンケート調査にご協力して下さった20企業並びにアンケート調査作成や纏めに貢献して下さった桜井悌司前マーケティング渉外広報委員長に感謝申し上げます。

杉村秀一郎マーケティング渉外広報委員長